

CASBEE[®]横浜 | 評価結果 | 7-003

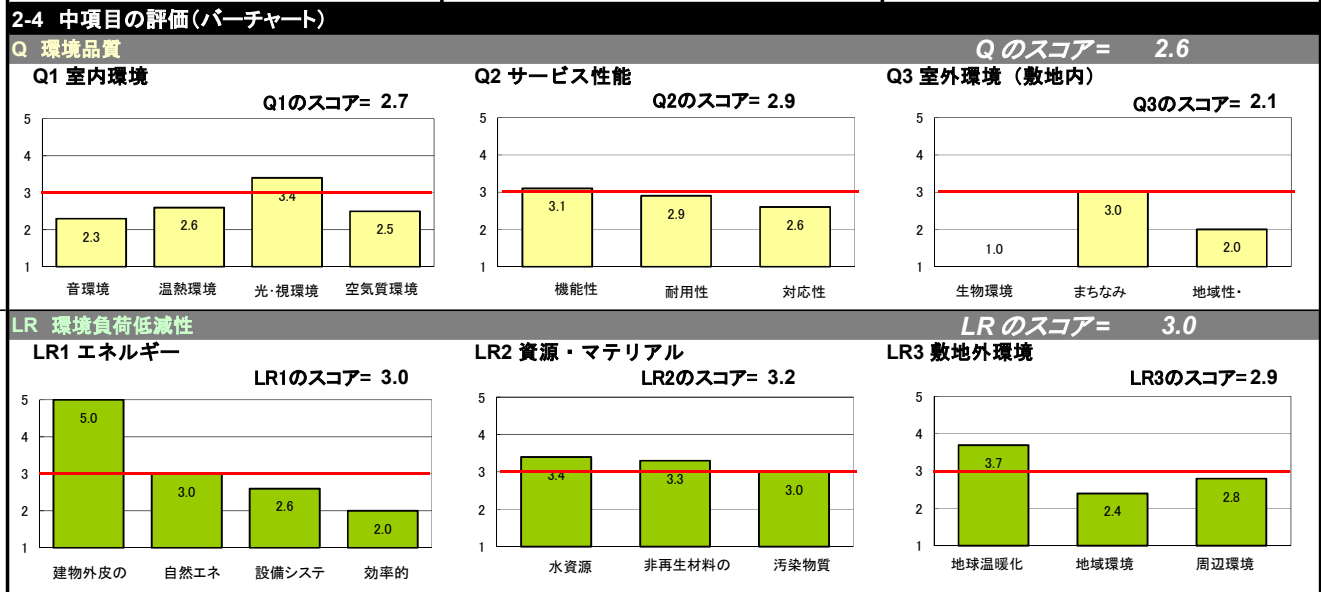
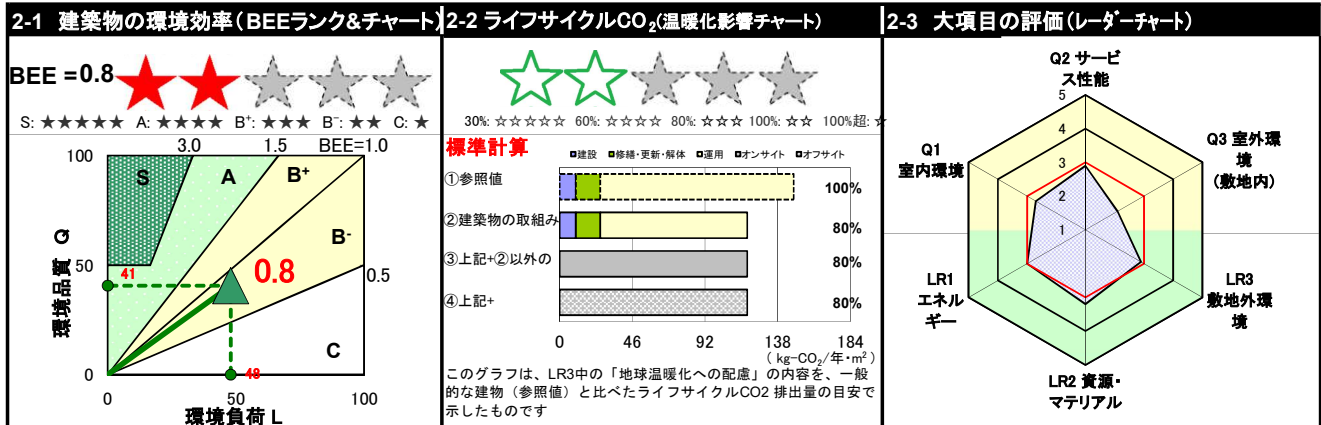


■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_連絡版

■バージョン：CASBEE横浜2025年版v1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)二俣川1丁目介護施設(二期)	階数	地上3F
建設地	横浜市旭区二俣川一丁目39番の5他	構造	S造
用途地域	第一種低層住居地域、準防火地域	平均居住人員	95 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年7月 予定	評価の実施日	2025年4月2日
敷地面積	2,599 m ²	作成者	大和ハウス工業南関東流通一級建築士事務所
建築面積	798 m ²	確認日	2025年4月2日
延床面積	2,123 m ²	確認者	大和ハウス工業南関東流通一級建築士事務所

外観パース等(任意)



3 設計上の配慮事項		
総合	低層建物で、住環境の影響に配慮した計画としている。	
その他		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
昼光率を高めに設定している。	壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。	緑地を設けることにより良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。	自動水栓や、超音波装置などの省水型機器を用いるなど水資源を保護している。	室外機のショートサーキットを回避し、気温上昇抑制に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要		<非住宅>		受付日 2025年4月4日													
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。			建物名称 (仮称)二俣川1丁目介護施設(二期)														
建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving		重点項目への取組(5点満点)		【省エネルギー性能】	2												
■省エネルギー性能																	
この建物の設計一次エネルギー消費量 24 %削減																	
		<table><thead><tr><th colspan="2">再エネなし</th><th colspan="2">再エネあり</th></tr></thead><tbody><tr><td>削減率</td><td>24%</td><td>削減率</td><td>24%</td></tr><tr><td>BEI値</td><td>0.76</td><td>BEI値</td><td>0.76</td></tr></tbody></table>				再エネなし		再エネあり		削減率	24%	削減率	24%	BEI値	0.76	BEI値	0.76
再エネなし		再エネあり															
削減率	24%	削減率	24%														
BEI値	0.76	BEI値	0.76														
■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)																	
①BPIm=0.72																	
健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community		重点項目への取組(5点満点)		【快適・働きやすさ】	2												
■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)																	
⑩共用)2.0%≤[昼光率]<2.5%、住戸)1.25%≤[昼光率]																	
⑩住戸)ベッド単位にON・OFF可能																	
■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)																	
■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)																	
防災への配慮 (R) Resilience		重点項目への取組(5点満点)		【防 災】	3												
■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)																	
⑯居室)床:ビニル床シート貼20年、壁:ビニルクロス貼20年、天井:ビニルクロス貼30年																	
⑰給水:VB管(B)PEP管(B)、雑排水:VP管(B)、汚水:VP管(B)、2種以上にBを採用、Eは不採用																	
地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape		重点項目への取組(5点満点)		【地域・まちづくり】	2												
■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)																	
太陽光発電などの導入		環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)															
エネルギーマネジメントシステム導入																	



スコアシート		重点項目		建物全体・共用部		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質				—	—	—	—	2.6
Q1 室内環境				—	0.40	—	—	2.7
1 音環境				2.3	0.15	2.2	1.00	2.3
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	0.40	—
1.2 遮音				2.4	0.40	2.2	0.40	—
1.2.1 開口部遮音性能				3.0	0.40	3.0	0.30	—
1.2.2 界壁遮音性能				2.0	0.60	1.0	0.30	—
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				—	—	1.0	0.20	—
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)				—	—	4.0	0.20	—
1.3 吸音				1.0	0.20	1.0	0.20	—
2 温熱環境				2.6	0.35	2.6	1.00	2.6
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	0.50	—
2.1.1 室温		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.38	3.0	0.57	—
2.1.2 外皮性能		快適・働きやすさ	健康・安心 ⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.25	3.0	0.43	—
2.1.3 ゾーン別制御性		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.38	—	—	—
2.2 湿度制御		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	1.0	0.20	1.0	0.20	—
2.3 空調方式		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.30	3.0	0.30	—
3 光・視環境				3.1	0.25	3.8	1.00	3.4
3.1 昼光利用				3.6	0.30	4.2	0.30	—
3.1.1 昼光率		快適・働きやすさ	⑩光環境	4.0	0.60	5.0	0.60	—
3.1.2 方位別開口		快適・働きやすさ	⑩光環境	—	—	—	—	—
3.1.3 昼光利用設備		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.40	3.0	0.40	—
3.2 グレア対策				3.0	0.30	3.0	0.30	—
3.2.1 昼光制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	1.00	3.0	1.00	—
3.3 照度		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.15	3.0	0.15	—
3.4 照明制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.25	5.0	0.25	—
4 空気質環境				2.3	0.25	2.8	1.00	2.5
4.1 発生源対策				3.0	0.50	3.0	0.63	—
4.1.1 化学汚染物質		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	1.00	3.0	1.00	—
4.2 換気				2.0	0.30	2.6	0.38	—
4.2.1 換気量		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33	—
4.2.2 自然換気性能		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	—	—	4.0	0.33	—
4.2.3 取り入れ外気への配慮		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	1.0	0.50	1.0	0.33	—
4.3 運用管理				1.0	0.20	—	—	—
4.3.1 CO ₂ の監視		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	—	—	—	—	—
4.3.2 喫煙の制御		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	1.0	1.00	—	—	—
Q2 サービス性能				—	0.30	—	—	2.9
1 機能性				2.7	0.40	3.8	1.00	3.1
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60	—
1.1.1 広さ・収納性		快適・働きやすさ	⑫機能性	—	—	5.0	1.00	—
1.1.2 高度情報通信設備対応		快適・働きやすさ	⑫機能性	—	—	—	—	—
1.1.3 バリアフリー計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	1.00	—	—	—
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.0	0.40	—
1.2.1 広さ感・景観		快適・働きやすさ	⑫機能性	—	—	3.0	0.50	—
1.2.2 リフレッシュスペース		快適・働きやすさ	⑫機能性	—	—	—	—	—
1.2.3 内装計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	1.0	1.00	1.0	0.50	—
1.3 維持管理				4.0	0.30	—	—	—
1.3.1 維持管理に配慮した設計		快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.50	—	—	—
1.3.2 維持管理用機能の確保		快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.50	—	—	—
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	—	—	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	—	—	—
2.1.1 耐震性(建物のこわれにくさ)		防災	⑬耐震・免震	3.0	0.80	—	—	—
2.1.2 免震・制震・制振性能		防災	⑬耐震・免震	3.0	0.20	—	—	—
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	—	—	—
2.2.1 躯体材料の耐用年数		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	—	—	—
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	1.0	0.20	—	—	—
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.10	—	—	—
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	—	—	—
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	—	—	—
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	—	—	—
2.4 信頼性				2.4	0.20	—	—	—
2.4.1 空調・換気設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	—	—	—
2.4.2 給排水・衛生設備		防災	⑰信頼性	1.0	0.20	—	—	—
2.4.3 電気設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	—	—	—
2.4.4 機械・配管支持方法		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	—	—	—
2.4.5 通信・情報設備		防災	⑰信頼性	2.0	0.20	—	—	—
3 対応性・更新性				2.6	0.30	2.6	1.00	2.6
3.1 空間のゆとり				2.4	0.30	2.2	0.50	—
3.1.1 階高のゆとり				2.0	0.60	1.0	0.60	—
3.1.2 空間の形状・自由さ				3.0	0.40	4.0	0.40	—
3.2 荷重のゆとり				2.0	0.30	3.0	0.50	—

3.3	設備の更新性			3.4	0.40			
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20			
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20			
	3	電気配線の更新性		5.0	0.10			
	4	通信配線の更新性		5.0	0.10			
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20			
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30			2.1
1	生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	⑩生物環境の保全と創出	1.0	0.30			1.0
2	まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	⑨まちなみ・景観への配慮	3.0	0.40			3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30			2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	⑭地域性への配慮	2.0	0.50			
	3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	⑭敷地内温熱環境の向上	2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-			3.0
LR1 エネルギー				-	0.40			3.0
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	5.0	0.20			5.0
2	自然エネルギー利用	省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	3.0	0.10			3.0
3	設備システムの高効率化			2.6	0.50			2.6
	集合住宅以外の評価	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	2.6	1.00			
	集合住宅の評価	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	-	-			
4	効率的運用			2.0	0.20			2.0
	集合住宅以外の評価			2.0	1.00			
	4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50			
	4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	1.0	0.50			
	集合住宅の評価			-	-			
	4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	-	-			
	4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	-	-			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			3.2
1	水資源保護			3.4	0.20			3.4
	1.1 節水			4.0	0.40			
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60			
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70			
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30			
2	非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60			3.3
	2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10			
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20			
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20			
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20			
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10			
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20			
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20			3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30			
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70			
	1	消火剤		-	-			
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50			
	3	冷媒		3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				-	0.30			2.9
1	地球温暖化への配慮			3.7	0.33			3.7
2	地域環境への配慮			2.4	0.33			2.4
	2.1 大気汚染防止			1.0	0.25			
	2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50			
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25			
	1	雨水排水負荷低減		4.0	0.25			
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25			
	3	交通負荷抑制		3.0	0.25			
	4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25			
3	周辺環境への配慮			2.8	0.33			2.8
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
	1	騒音		3.0	1.00			
	2	振動		-	-			
	3	悪臭		-	-			
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40			
	1	風害の抑制		3.0	0.70			
	2	砂塵の抑制		1.0	-			
	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30			
	3.3 光害の抑制			2.3	0.20			
	1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		2.0	0.70			
	2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			
上記以外の重点項目								
<事務所用途>								
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	-	-			
<住宅用途>								
健康と安心								
	1	化学汚染物質の対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-		
	2	適切な換気計画	健康・安心	⑥健康対策	-	-		
	3	結露・カビ対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-		
	4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	⑦防犯対策	-	-		